平久保半島自治協議会だより

第1号　令和8年4月発行　　発行: 平久保半島自治協議会

協議会ってなに？ ― みんなの声が届く仕組み

平久保半島自治協議会は、平野・平久保・久宇良・明石・伊原間の5つの集落が団結して設立した地域の組織です。
「協議会の人たちが自分たちの利益のためにやっている」という声を耳にすることがあります。しかし、実際の仕組みを知っていただければ、それが誤解であることがお分かりいただけると思います。

住民が公民館長を選ぶ
各集落の住民が、自分たちの代表として公民館長を選出します。この時点で、協議会の意思決定の出発点は住民の皆さんです。

▼

公民館長が理事になる（意思決定の最高責任者）
5名の公民館長がそのまま協議会の理事となります。協議会のあらゆる決定は、この5名の理事が最終的に判断します。つまり、地域の代表が一番上にいる組織です。

▼

理事が事務局を指名する
各理事が自分の地域から、地域への熱い思いを持つ人を事務局員として指名します。事務局は理事の下で実務を担います。

▼

理事＋事務局から会長を選任
理事と事務局の中から、代表として実務を担う会長を選任します。会長は理事会の決定に従って動く立場です。

すべての権限は住民から出発しています。
「地域のことは地域で決め、地域の協働で解決する」これが私たちの原点です。

旧平久保小学校の管理受諾 ― なぜ再び手を挙げたのか

旧平久保小学校の管理について、石垣市から協議会に打診がありました。この件について、率直に経緯をお伝えします。

■ 一度は取りやめました

今年2月の理事会で、この件は取りやめる方向で決定しました。理事からは以下のような慎重な意見が出されました。

> **「本当にこんな大きな仕事を協議会ができるのか？」**
> **「責任が重すぎるのではないか？」**
> **「協議会の本来の目的とずれているのでは？」**
> **「一部の住民から、事務局の人たちが自分たちのビジネスの利益のためにやっているだけだという意見がある」**

これらはすべて真剣な議論の結果です。理事会では、リスクと責任を正面から向き合い、慎重に判断した結果、見送ることにしました。

■ それでも再び手を挙げた理由

その後、石垣市と話し合いを持つ機会がありました。その中で、旧平久保小学校を地域の方々に利用していただくためには、協議会として管理を受諾されるのが望ましいという趣旨のお話がありました。
理事会で改めて議論し、以下のような認識を共有しました。

> **たとえ大変でも、この地域の意見を反映させるためには誰かが動かなければならない。**
> **協議会で受けることができれば、地域が自ら決断し行動していく姿勢を示すことができる。**
> **それは、新しく参入する企業と対等に交渉していく武器になる。**

この認識のもと、4月8日の総会にて承認されました。ただし、無条件の受諾ではありません。今後の市との協議の中で、業務内容や責任範囲が協議会の対応可能な範囲であることが前提であり、条件次第では辞退もあり得ることを全員で確認しています。

管理受諾で地域はこう変わる

旧平久保小学校の管理を協議会が受けることで、地域には以下のような変化が生まれます。

■ 協議会の事務所ができる

現在、協議会には専用の事務所がありません。管理住宅を事務所として活用することで、協議会の活動拠点ができます。住民の皆さんが気軽に立ち寄れる場所としても機能します。

■ 事務員を雇用できる可能性

管理業務に伴う予算が石垣市から付くことで、地元の方を事務員として雇用する財源を確保できる可能性があります。地域内での雇用創出にもつながります。

■ 石垣市との実績になる

市からの委託実績は、今後の補助金申請や事業展開において協議会の信頼性を高めます。「自分たちで管理運営できる団体」という実績は、地域の発言力を大きく強化します。

■ 企業と対等に交渉できる

平久保半島には現在、4件の大規模リゾート開発申請が提出されています。地域が自ら管理運営する実績があれば、これらの企業と対等な立場で交渉する武器になります。「意見を言うだけの地域」と「自ら行動する地域」では、交渉力に天と地ほどの差があります。

会長コラム ― 地域の未来は自分たちの手で

この地域の意見を反映させるためには、誰かが己を犠牲にしてでも動かなければならない。私はそう考えています。
旧平久保小学校の管理受諾は、正直に言って大きな負担です。一度取りやめたのも、その重さを真剣に受け止めたからです。
それでも再び手を挙げたのは、このままでは地域の意見が通らなくなるという危機感があるからです。地域が自ら決断し行動していく姿勢を示すこと。それが、新しく参入する企業と対等に交渉していくための唯一の武器だと思っています。
過疎化が進む中、大きな企業の論理だけで物事が決まっていく。そんな未来を私たちは望んでいません。
行政に自分に都合のいい意見だけ言って、何も動かない地域に未来はあるでしょうか。
私は、行動する地域をつくりたい。それが平久保半島自治協議会の使命だと考えています。

平久保半島自治協議会 会長 新垣信成

一緒に地域をつくりませんか？

協議会定例会のご案内

協議会では毎月第1水曜日に、各公民館持ち回りで定例会を開催しています。地域住民ならどなたでも参加できます。難しい話だけではありません。軽食・飲み物もご用意していますので、気軽に遊びに来てください！

次回: 5月6日（水）平久保公民館

議題: 旧平久保小学校の管理をどうしていくか、一緒に考えませんか？

発行: 平久保半島自治協議会　　事務所: 久宇良公民館　　HP: hirakubo5.com/kyougikai/